



○院内学級の教員に入級時にお願いしたいこと

- 保護者に確認後、必要に応じて原籍校の教員、医師、看護師等と連絡を取ったり、共通理解の場を設定したりする。

本人の前籍校での様子を聞き、院内での支援の参考にするために、原籍校の教員と連絡を積極的に取るとよいです。その際、実際に会って話すことでその後の連携がスムーズになることも多いので、可能であれば電話等で情報交換をするだけでなく、面談の日時を設定するとよいです。また、入院中の学級通信やその他本人に関係する配付物等の送付依頼（送付先については、本人や保護者と相談）をすることも忘れないとよいです。

入院中は定期的（間隔は要相談）に連絡を取り、連携して支援（学習進度の確認や各種学習プリントの送付等）していきたいということを原籍校の教員に依頼するのもよいです。

評価について確認しておきましょう。入退院の時期がちょうど評価の時期と重なるような場合、評価は原籍校であるのか、院内であるのかなど、それに伴う書類作成も確認しておくとその後の支援がスムーズに進みます。

医療者とも懇談の場を設けるようにし、本人の病気についての正しい情報を得ることや、気を付けるとよいことなどを確認しておくともよいです。同じ病名でも配慮事項は個人によりかなり違ってくるものです。また、毎日の体調確認や不定期に何か知りたいことが発生した時の連絡方法等も同時に確認しておくともよいです。

原籍校の教員や医療者と別々に懇談するより、同時に確認すべきことがある場合には、関係機関と共通理解する場をそれぞれの機関と協力して持つことも大切です。

- 本人や保護者に院内学級についての説明をする。

院内学級での学習（日課、係、仲間、その他のルール等）について説明する。同時に本人や保護者からの疑問等については丁寧に聞き取りをし、本人や保護者の不安軽減に努めるとよいです。

また、保護者には、連絡方法（連絡先、都合の良い曜日や時間等）を確認しておく、その後の連携が結びやすくなります。

- **本人や保護者と原籍校との交流について相談する。**

院内学級在籍中に原籍校とどのように交流したいか、本人や保護者と相談するとよいです。入院中に学級の仲間と何らかの方法で交流しておくことは、スムーズな復学へとつながる一つの手段でもあります。親子が交流に対して迷っている場合などは、是非提案してみるとよいです。例えば、学級通信等の配付物の送付を希望するのか、行事への参加はどうしたいのか（医師の許可を得て、文化祭や修学旅行に参加）などの話し合いを丁寧にするるとよいです。また、手紙やビデオ、遠隔教育等を通じた日常の交流等、できるだけ復学する原籍校とのつながりを持てるようにしておくことが重要です。

- **本人の病気について正しく理解する。**

病名は同じでも、症状や治療の仕方は様々です。そのため、当然必要な配慮事項にも違いがでてきます。以前に在籍していた子どもと同じ病名だと済ませることなく、医師と懇談するなどして、本人の今の病状に対する正しい情報を得るようにするとよいです。